

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
  - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
  - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り]」・「発表」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げかなどを判断したりする力を重視する。
  - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR等を参考に作成する。
 

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

### 2 各問題の出題意図と解答結果及び自己評価等

センター試験から共通テストへの移行に伴い、大問ごとに問うポイント（文法・語彙など）を明確にするとともに、資料の読み取りや長文の読解に重点を置く問題構成とする変更を行った。

これまでのセンター試験における問題作成の大枠と良問の蓄積を受け継いだ上で、基本的知識を問う問題と、思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスに配慮し、問題の数、配列、配点を見直した。具体的には、語彙問題の数を減らし、設問形式も語彙知識を直接問うものから、語句の用法に基づいて正解を導くものに変更し、語彙問題減少分を読解問題に重点化して配分した。また、大問の配列を、発音、文法、語彙・表現、整序作文から意味内容、読解へと問題の漸進性に配慮して変更した。今年度もこの形式を踏襲するとともに、思考力を問う問題をより重点化した。

なお、フランス語の表記は従来の正書法に従っているが、近年フランスの学校教育に導入された新たな正書法と齟齬が生じないように配慮した。最近の傾向を踏まえ、また、受験者に分かりやすさなどの配慮から、大文字にもアクサン記号を付けている。

#### 第1問 発音問題

つづり字の読みを通して、「聞く、話す」能力の基礎となるフランス語の発音に関する基本的知識を問う問題である。つづり字と発音の関係の理解度を試すために、できる限り多様な出題を心がけた。リエゾンについての知識を問う問題では、語句レベルのリエゾンも積極的に扱うこととした。基本的な発音の規則を正確に把握していれば容易に正解に到達できるものと思われる。高等学校教科担当教員からは学力を測定する問題形式として評価されており、難易度も適切であったと考えられる。

問1は語頭と語中「c」の発音を問うもので、正答率が高く、受験者の学力の差異を十分に識別できるものであった。問2は語末の「l」の発音の有無を問うもので、正答率がやや低く、高等学校教科担当教員から難易度が高いのではないかという指摘を受けたが、成績上位層に対する識別力は高かった。問3は語中と語末の「en」の発音を問うもので、正答率も十分で、識

別力が高かった。問4は語頭と語中の「g」の発音を問うもので、正答率が高く、識別力も十分なものであった。問5は「語末の子音と後続する単語の語頭の母音のリエゾンの規則」を問うもので、正答率、識別力ともに十分であった。

## 第2問 語形変化の問題

語形変化を文法・語彙の知識と関連付けて問う複合的問題である。できるだけ多様な品詞にわたって出題するよう配慮した。文法、つづり字に関する基礎的な知識を広く試すよう努めた。

問1は動詞 *croire* から形容詞 *incroyable* を問う問題であり、正答率が高く、識別力は十分だった。問2は形容詞 *difficile* から名詞 *difficulté* を問う問題であり、正答率は7割を超え、識別力が高い問題であった。問3は形容詞 *agréable* から対義語の形容詞 *désagréable* を問う問題であり、正答率は高かった。問4は動詞の現在形 *se voit* から単純未来形 *se verra* を問う問題であり、正答率は5割強であったが、高等学校教科担当教員からは適切な問題であるとの指摘があった。問5は形容詞 *franc* から副詞 *franchement* を問う問題であり、正答率は7割を超え、識別力は高かった。

## 第3問 文法の問題

文法に関する基本的知識を問う問題である。基本的な文法事項を、偏ることなく、広く問う多様な問題の作成を心がけた。また、他の問題と同様、問題文についても、実際に使われる自然なフランス語になるように配慮した。

全体的に識別力は高かったが、正答率の低い設問が幾つかあった。問1から問3は基本的な文法知識を問う問題として適切であった。問4は、*sauf si* で始まる条件節における動詞の法と時制を問う問題であり、受験者にとって難度が高く、今年度の問題において最も正答率が低かった。問5は、現在分詞の知識を問う問題で、成績上位層の正答率は十分に高かった。

## 第4問 語彙・表現の問題

語彙・表現に関する基本的知識を問う問題である。与えられた文脈の中で、基本的な言い回しや慣用表現・熟語に関する知識を問う問題の作成を心がけた。また、他の問題と同様、問題文についても、実際に使われる自然なフランス語になるように配慮した。

識別力は総じて高かったが、正答率には若干のばらつきが見られた。例えば、問3は受験者の正答率が高かったが、*une nuit blanche* という熟語表現を問う問5は正答率が低かった。動詞 *mener* の基本語義を問う問2は、識別力が高い良問であると思われる。

## 第5問 対話完成問題

与えられた会話の一部から、日常生活における自然な状況を判断し、対話を完成させる問題である。具体的で想像しやすい場面や状況を設定しつつ、内容が多様なものになるよう心がけた。また、できる限り明解なフランス語による表現を採用した。さらに、会話の一部だけを読んで正答を導くことができる問題ではなく、会話全体を読まなければ正答できない問題を作るようにした。

正答率には若干のばらつきが見られた。問4は会話文中の「24」の後に置かれた *Alors* が正答を導くための大きなヒントとなったと思われ、正答率が非常に高く、受験者にとって易しい問題であった。問3は会話文中から連想される *vagues* や *la mer* といった語彙が誤答選択肢に使用されており、識別力が高い問題として高等学校教科担当教員からの評価も高かった。全体としての難易度は適切であったと考えられる。

## 第6問 整序作文問題

例年の出題形式・傾向どおり、与えられた日本語を手掛かりに、平易な語彙・表現を用いてフランス語で作文する能力を測ることを目的としている。問題の日本語文は、自然でありなが

らも正答を導きやすいものとなるよう配慮した。正しい語順を理解していなければ正答とならないよう工夫するとともに、空欄の位置によって難易度を調整している。

問4では日本語文「約束の日をちを確認するように、彼に言うように」に対応する正答 *On lui dira de confirmer la date du rendez-vous.* を導くための、人称代名詞の位置、及び「～するように言う」*dire de* + 不定詞という表現についての正確な知識が求められた。*On dira lui confirmer de la date du rendez-vous.* などとしてしまった受験者もいたものと思われる。正答率自体は高く、他の問題も比較的容易に正答できるものであり、全体としての難易度は適切であったと考えられる。

#### 第7問 資料・会話読解問題

図や表を用い、日常生活や身近な問題についてフランス語の知識・読解力を問うとともに、それに基づいた思考力・判断力を試す問題である。受験者にとって親しみやすい題材となるよう心がけるとともに、図表等の資料に基づく適当な分量の文章又は会話とした。AとBの中間に分かれ、それぞれ、資料に基づいた会話を提示し、資料と会話を関連付けながら状況を読み解く能力を問うている。具体的には、Aは「ブックフェアについての案内」、Bは「手作りシャンプーの作り方についての記事」を題材とした。なお、本年度よりA・Bの設問形式を統一し、大問全体の配点を上げている。

成績上位層はおおむね正答率が高く、識別力は高く保たれた。Aについては、問1は文章を読み、二か所の空欄を補充する問題、問2は文章を読み資料を参照しながら適切な選択肢を選ぶ問題、問3は会話文を読み二か所の空欄を補充する問題、問4は資料の内容と一致する選択肢を二つ選ぶ問題とした。Bについては、問1は会話文を読み二か所の空欄を補充する問題、問2は短い文を読み、空欄一か所を補充する問題、問3は文章を読み資料を参照しながら適切な選択肢を選ぶ問題、問4は資料の内容と一致する選択肢を二つ選ぶ問題とした。

いずれも受験者のフランス語力を試す上で、適切な問題であったと思われる。

#### 第8問 長文読解問題

論旨が明快で論理に一貫性のある文章を素材として選び、事柄の因果関係や対立などを正確に読みとる力や、文意を正確に把握する力を測る問題である。従来の出題方針を踏襲しながらも、新課程要領に対応するため、思考力を問う設問を例年より1題増やすこととした。なるべく平易な表現を使った読みやすい題材を選択すると同時に、一般常識のみで正答にたどり着けるような問題や、単語や成句の知識を問うだけの問題は排除するよう心がけた。さらに、時代に即した内容としながら、論旨を追いやすくするよう十分に配慮し、論理の展開に即して内容を把握できているかを試す問題を設けた。その結果、思考力・判断力を的確に測ることが可能な良問になったと思われる。

問1は第1段落の空欄に入る適切な語句を選択する問題、問2は下線部の具体例として適切なものを判断する問題、問3は第2段落の空欄に入れるのに適切な語句を選択する問題、問4は第3段落の空欄に入る適切な語彙を選択する問題、問5は下線部の理由として適切なものを選択する問題、問6は第3段落の空欄に入る適切な文を前後の内容から判断する問題、問7は接続語句を選択する問題、問8は本文の内容と一致する文を二つ選択する問題、問9は本文の内容から適切なタイトルを選択する問題であった。全体的に識別力が高く、内容の理解度を多角的に測る問題であった。

### 3 ま と め

以上、問題作成方針、問題形式と内容、高等学校教科担当教員から寄せられた意見を踏まえて解

答結果を分析・検討し、問題作成分科会としての見解を述べた。

今回の試験については、識別力の高い問題が多く、幅広い受験者層への対応が的確であったと判断できる。難易度としても試験の目的にかなうものであった上、標準偏差の高さが示す通り受験者の得点は平均点から十分な散らばりを伴う分布をなしていた。今後も高等学校における学習範囲を逸脱しない適切な出題内容を心がけ、極度に難易度の高い問題や出題傾向の偏りを避ける配慮を維持しつつ、共通テストとして完成度の高い問題を作成し続けることを継続目標としたい。

なお、高等学校教科担当教員の方々を始め、各方面から有益な御意見を頂いたことに末筆ながら改めて御礼を申し上げたい。